

Q 静岡県防災・原子力学術会議とは何ですか?



A 静岡県防災・原子力学術会議（以下「学術会議」という。）は、静岡県民が直面する自然災害や浜岡原子力発電所の防災対策について県民へ情報発信することを目的に、平成22年4月に発足しました。

学術会議は、より広い観点から考察する分野の有識者で構成され、分科会・専門部会の下部組織を設けています。

静岡県防災・原子力学術会議

原子力分科会

- ・浜岡原子力発電所の防災対策に係る科学・技術の検証に関すること

地震火山対策分科会

- ・地震・火山対策に関する検証、提言に関すること

津波対策分科会

- ・津波対策に関する検証、提言に関すること

原子力経済性等検証専門部会

- ・原子力発電の立地、運転維持及び安全対策等に係るコストの検証に関すること
- ・その他本県内における電力の安定供給のために必要な協議に関すること

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中（令和5年10月～12月）、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、令和6年3月19日現在、3号機、4号機及び5号機については定期事業者検査及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局 静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス：<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス：<http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

原子力だより No. 200



令和6年1月に、静岡県防災・原子力学術会議（原子力分科会、地震・火山対策分科会 合同会議）が開催されました。会議では、原子力規制委員会の審査会合で「おおむね妥当」と評価された基準地震動（設計の基準となる地震の揺れ）等が議論されました。委員から、県民に正しく理解してもらうために分かりやすい説明を求める意見等がありました。

令和5年10月～12月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとに取りまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

令和5年10月から12月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

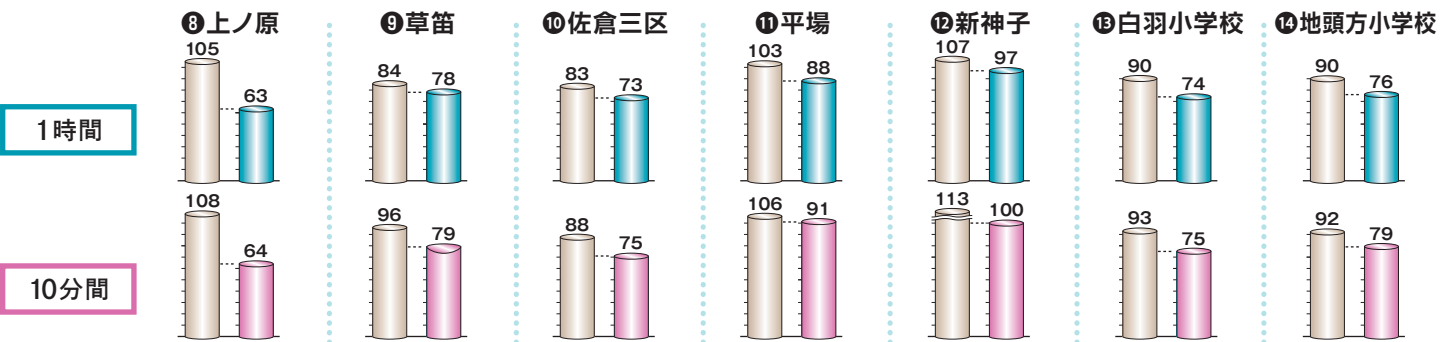
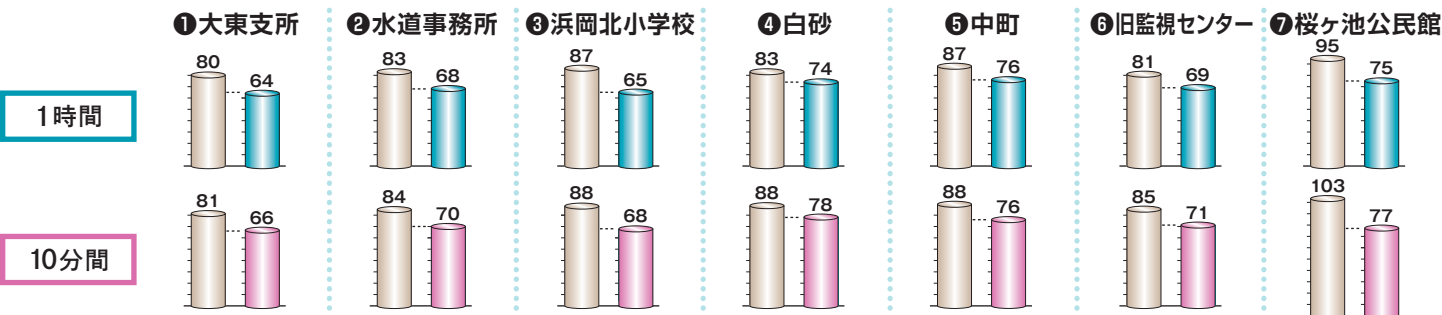
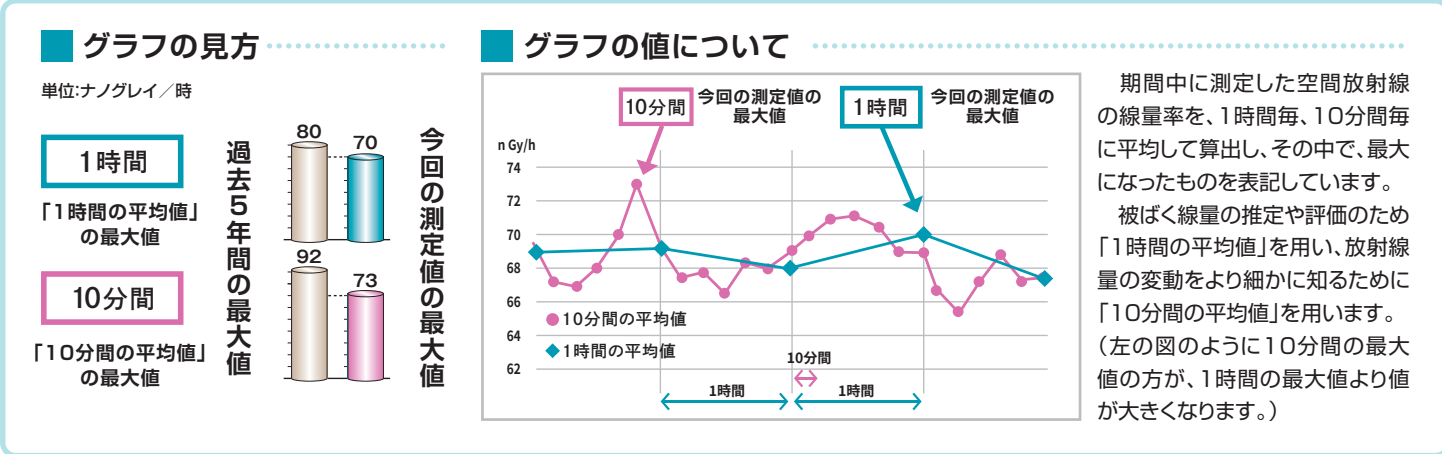
今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力 福島第一原子力発電所の事故等による人工放射性物質の影響が見られましたが、**健康への影響は心配ないレベルでした。**

（詳細は次ページ）

令和5年10月～12月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

空間の放射線の測定（1時間平均値 および 10分間平均値の最大値）

モニタリングステーション（14か所）において、常時、空間放射線の量を測定しています。令和5年10月から12月の間の測定結果で過去5年の最大値を超えた地点はありませんでした。測定された値は、東電事故等の影響は認められず、自然放射線由来のものです。



測定結果から、自然放射線による外部被ばく線量は、年約0.29mSvと推定されます。（日本平均約0.33mSv、世界平均約0.48mSv※）

※新版 生活環境放射線（国民線量の算定）平成23年12月（原子力安全研究協会）から引用

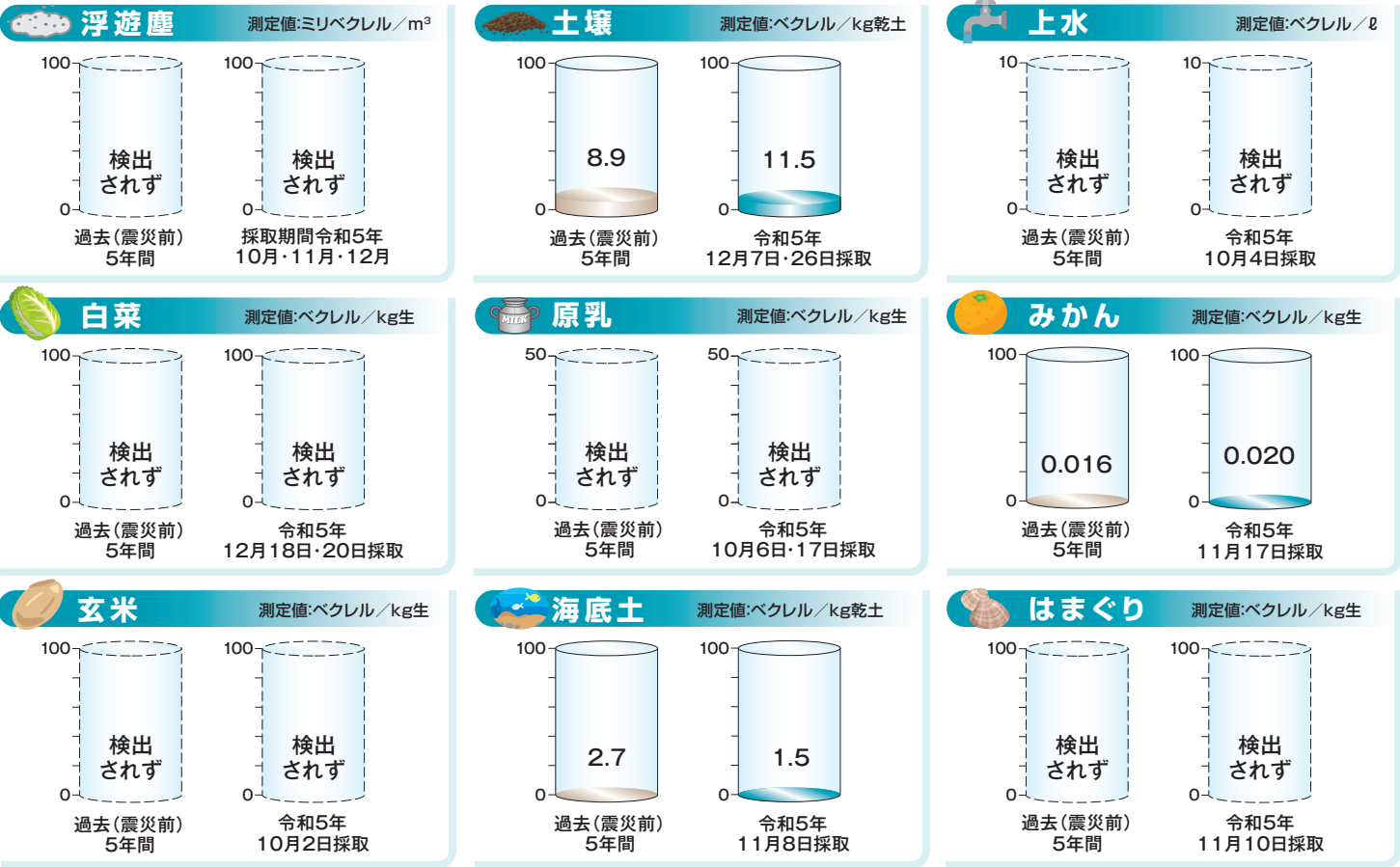
農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。令和5年10月から12月の間に測定した試料の一部※は、過去（震災前）5年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準*等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや、東京電力 福島第一原子力発電所の事故の影響によるものと推定しました。

※ 測定した9試料29検体のうち、2試料2検体（土壌1検体、みかん1検体）

*食品衛生法に基づく基準値(参考欄参照)

代表的な試料の放射性セシウムの測定値の最大値



参考

日常生活と放射線

人工放射線被ばくの例

胃のX線検査 約3.0mSv

自然放射線の日本平均 約2.1ミリシーベルト/年の内訳

宇宙から 約0.3mSv

大地から 約0.33mSv

ラドン等の吸入 約0.48mSv

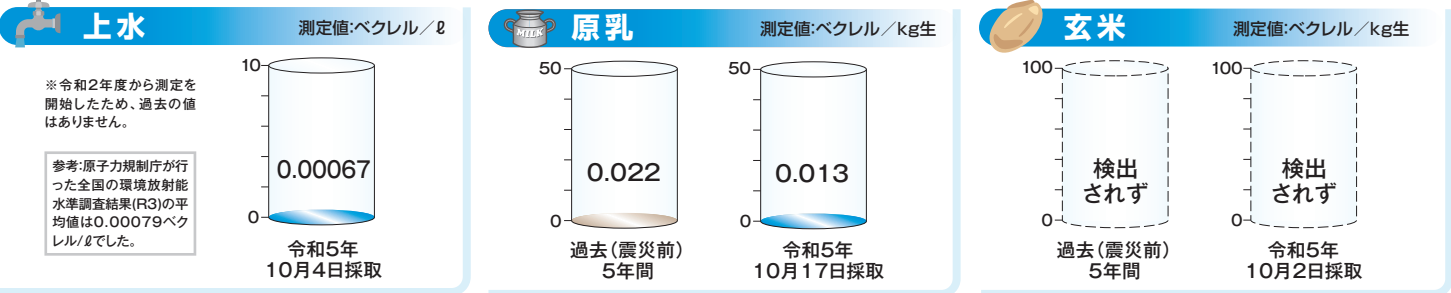
食物から 約0.99mSv

参考

食品衛生法に基づく食品の放射性セシウムの基準値

食品群	基準値 (Bq/kg)
飲料水	10
牛乳	50
一般食品	100

代表的な試料の放射性ストロンチウムの測定値の最大値



放射能調査に用いる単位			参考		
グレイ (Gy)	放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位	千分の1	ミリ(m)	1/1,000	千分の1
シーベルト (Sv)	吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位	百万分の1	マイクロ(μ)	1/1,000,000	百万分の1
ベクレル (Bq)	放射能の強さを表す単位	10億分の1	ナノ(n)	1/1,000,000,000	10億分の1